

NISA,確定拠出年金(iDeCo,DC),変額保険加入者のための資産運用ガイド

積立投資で元本割れが続いている場合 2023年2月

下図表①②は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです。

(MS社インデックスファンド基準価額データを利用)

図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。

図②は外国株式ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。

この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

① 投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

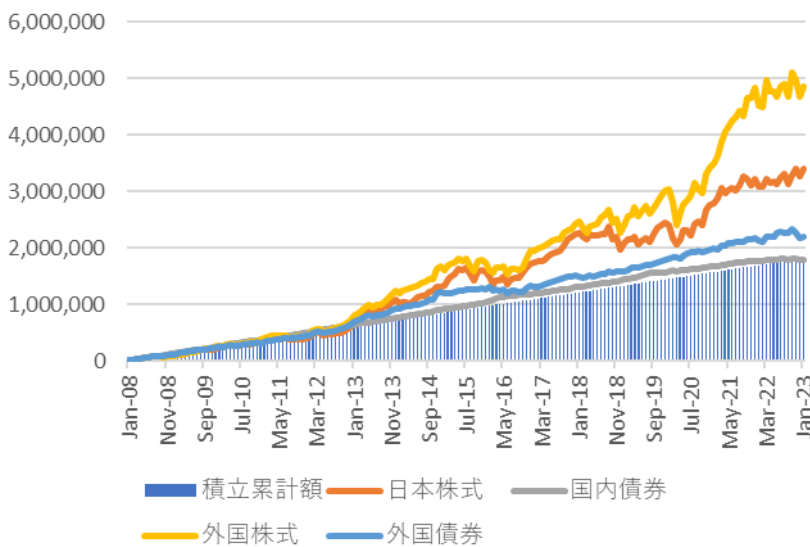
② 大幅に値下がりした場合

積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

③ 長期継続する

値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

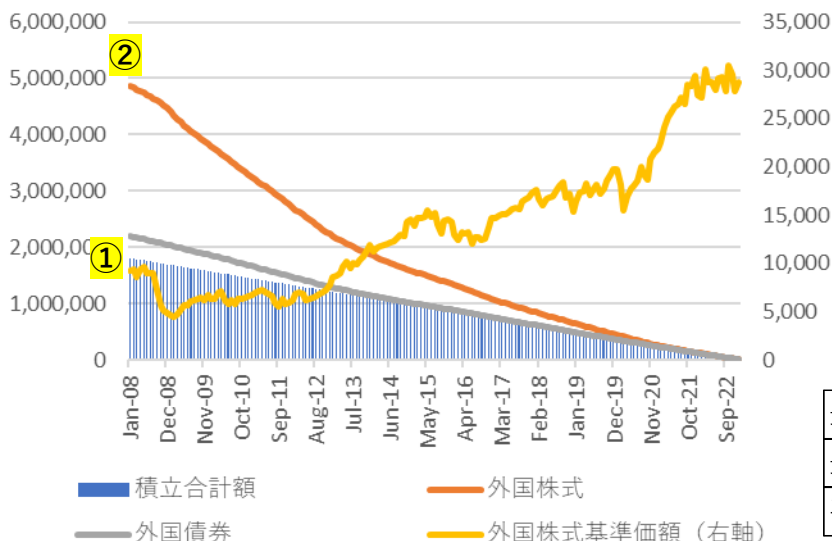
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Nov-22	Dec-22	Jan-23
積立累計額	1,790,000	1,800,000	1,810,000
日本株式	3,403,299	3,256,873	3,409,670
国内債券	1,805,198	1,790,978	1,795,690
外国株式	4,975,703	4,681,394	4,865,946
外国債券	2,266,920	2,165,656	2,200,087

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できます。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた積立投資の合計額①181万円(青棒)は2023年1月に②486万円(オレンジ線)になっています。

グラフの左の方は積立合計(青棒)に対して現在の評価額(オレンジ線)が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。

つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

10年ちょうど(120万円)積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下の表のようになります。

最大	2,640,931	2012年1月 ~ 2021年12月
最小	1,747,373	2010年4月 ~ 2020年3月
平均	2,279,659	データ数: 61

NISA,確定拠出年金(iDeCo,DC),変額保険加入者のための資産運用ガイド

積立投資で元本割れが続いている場合 2023年2月

1月の株式市場は上昇

	日経平均		NYダウ		ドル円
Nov-22	27,968.99	1.38%	34,589.77	5.67%	137.75
Dec-22	26,094.50	-6.70%	33,147.25	-4.17%	131.12
Jan-23	27,327.11	4.72%	34,086.04	2.83%	130.05

1月の株式市場は堅調でした。インフレ懸念が後退したことや景気後退懸念が和らいだことが株式市場の下支えになりました。中国のゼロコロナ政策の転換が中国景気を押し上げることも期待されています。

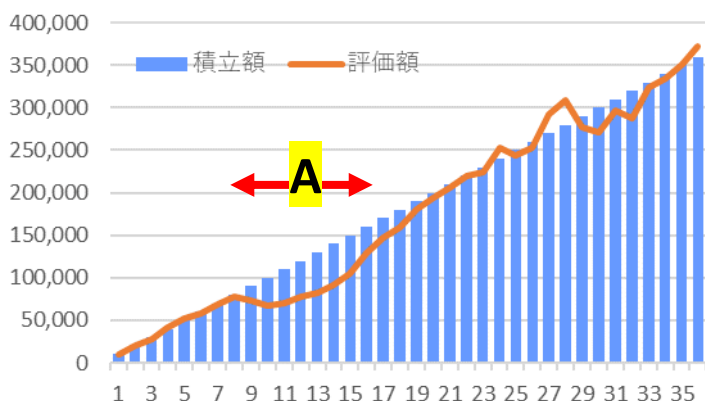
ロシア・ウクライナ情勢は依然不透明ですし、インフレや景気鈍化についても完全に懸念が払しょくされてたわけではありません。FRBの次月以降の動向によっては一時的にショック安もあるかもしれません。

しかしながらこのような短期の値動きに惑わされず積立を継続することが長期の資産形成では大切です。

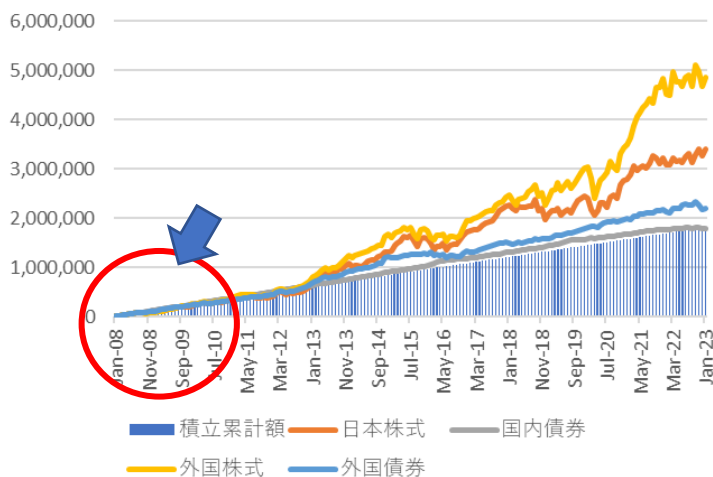
積立投資を最近始めたのですが元本割れをしています。このまま続けて大丈夫ですか？

ここ2年ぐらいの間に積立投資を始めた方からよく聞く質問です。元本割れが続いているなか悪いニュースを聞くと長期投資とわかってはいても不安になる人もいます。

下図は積立開始から36ヶ月经過時点のグラフです。積立額36万円に対し評価額約37万円と1万円ほど上回ってはいますがほとんどの期間で元本割れでした。



実はこのグラフは2008年1月から2010年12月までの3年間（36ヶ月）の推移を表しています。前ページ①のグラフの「○」の期間です。



15年経過したグラフで見ると何事もなく殖えたように見えますが実は途中では元本割れをしたり、なかなか大きく元本を上回らずに不安に感じたりする時が必ずあるのです。

大きく下落したときなどは、長く続けるのが大切とわかかっていても、「これ以上マイナスを増やしたくない」「本当に続けても大丈夫か？」あるいは「もとに戻ったら解約しよう」と途中で積立を停止したり解約したりした人もいたかもしれません。

特に「A」の期間のように大きく値下がりしているときは、「もっと悪くなる」「回復は困難」といったニュースが多くなると思います。

確定利回りを上回るリターンは不確実なことに対しての我慢の報酬です。投資家が我慢している間も企業が事業を継続しているのであればいつか報われると考えてよいのではないのでしょうか？

長期でお金を殖やすのが目的であれば、そのような値動きを解説するニュースなどに惑わされずに、我慢して継続することが大切です。